

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 2 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23300315

研究課題名(和文) 医療リスク管理政策の国際比較制度分析：アクター理論によるアプローチ

研究課題名(英文) International Comparative Institutional Analysis of Medical Risk Management Policies : Approach from Actor Theory.

研究代表者

廣野 喜幸 (HIRONO, YOSHIYUKI)

東京大学・総合文化研究科・教授

研究者番号：90302819

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,100,000円、(間接経費) 4,230,000円

研究成果の概要(和文)：国際比較の観点から、公衆衛生・医学研究に関する日本の医療政策の形成過程の特徴を明らかにするため、医学専門雑誌、審議会の議事録や裁判記録等の資料分析を中心に調査し、その成果を論文・口頭で発表した。また各年度、医学・医療行政の専門家に対してインタビュー形式の調査を実施した。調査を通じて積極的な意見交換を行いながら、日本の医療行政の仕組みやワクチン・インフルエンザ等の政策の歴史の把握、最新情報の収集に努めた。

研究成果の概要(英文)：From the viewpoint of the international comparison, the analysis of materials such as medical journals, minutes of advisory councils, and trial records was mainly investigated to clarify the feature of the formation process of medical policy in Japan concerning public health and medical research. Some of the results were announced by the research paper and oral presentation. Moreover, in each fiscal year, we interviewed the experts of medicine and medical administration. While exchanging opinions positively, we made efforts to conceive the mechanism of the medical administration in Japan and to understand the history of the policies about vaccine and influenza and to collect the latest information.

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：科学社会学・科学技術史、科学社会学・科学技術史

キーワード：科学技術社会論 医療政策

1. 研究開始当初の背景

従来の医療政策学の研究の多くは医療保険、医療供給体制等の医療経済学的分析であった。しかし 20 世紀後半以降の生命科学・医学研究の飛躍的発展や国際的な感染症対策に対する関心の高まりから、医療政策の中でも医学研究や公衆衛生に関する政策の是非について分析する重要性が増大してきている。

こうした動向を鑑み、本研究は医学研究、公衆衛生に関する医療政策の国際比較分析を試み、医療政策学における新しい研究領域の展開を企図するものである。

2. 研究の目的

インフルエンザ、サリドマイド、スモン、ハンセン病、ワクチンといった裁判紛争等の深刻な社会問題となり、現在も原因究明や被害救済が重要課題となっている「医療リスク管理政策」を対象とし、国際比較の手法に基づいて、日本の医療政策の決定プロセスの特徴を考察する。

3. 研究の方法

日本の医療政策の形成過程の特徴を分析するために、オーラルヒストリー調査と文献資料調査の二つの方法を軸に研究を展開する。

前者のオーラルヒストリー調査については、医療行政の専門家、医学者を主な対象者として実施していく。

後者の文献調査については、他国の医療政策の一次資料の収集に焦点を当てながら、医学論文等の医学文献も対象とし進める。

4. 研究成果

初年度の 2011 年度は、本研究プロジェクトの基盤作りを主な目標とした。具体的には医療リスク管理政策に関する文献資料を調査して基本文献リストを作成し、研究会を数回開催した。

まず 2011 年 6 月 17 日に第一回会合を開き、研究計画について話し合った。第二回の研究会は「ハンセン病政策」をテーマとして 7 月 29 日に開催し、研究分担者の森が発表を行なった。続く 10 月 22 日には「スモン政策」をテーマとし、研究分担者の金森が講演を担当した。さらに 2012 年 3 月 17 日には「ワクチン政策」をテーマに設定し、研究分担者の石井、森を中心とする勉強会を行なった。各テーマの基本的な知識を確認し、重要な調査ポイントについてお互いに話し合った。

続く 2012 年度は研究プロジェクトを本格的に展開するため、国内の関係者のオーラルヒストリー調査、国外の医学論文・医療政策の文献調査を軸に研究を推進した。

オーラルヒストリー調査は、まずワクチンをテーマに、2012 年 7 月 15 日に岡部信彦氏(川崎市衛生研究所) 続いて 2013 年 2 月 9 日には手塚洋輔氏(京都女子大学)を招いて

お話をお伺いした。さらにサリドマイドをテーマとして、2012 年 10 月 28 日に小児科医の木田盈四郎氏に調査を依頼し、多くのご教示をいただいた。その後、同年 12 月 16 日には、日本の医療行政をテーマに北川定謙氏(日本公衆衛生協会)をお迎えし、議論を行った。各分野の専門家から、日本ならびに他国の政策過程について文献資料では得ることのできない重要な知見を得ることができた。

国外の医学論文・医療政策に関する文献収集についても、サリドマイド(花岡)、ハンセン病(石井・森・高野)、ワクチン(田中)と各担当者が作業を進め、重要な資料を得ることができた。

最終年度の 2013 年度は、前年度の研究を踏まえ、重要対象者に対するオーラルヒストリー調査を実施することとした。そのため 2013 年 7 月 21 日に日本公衆衛生協会の北川定謙氏を再度お招きした。議論を通して、日本の医療政策の形成過程の特徴に関して、理解を深めることができた。また 2012 年度に研究班内に発足させたワーキンググループの研究成果に基づき、2013 年 10 月にアメリカ・サンディエゴで開催された the 2013 Meeting of the Society for Social Studies of Science ならびに、11 月に東京工業大学で開催された第 12 回の科学技術社会論学会年次研究大会にて発表を実施した。その中で医療政策を専門とする国内外の研究者と交流し、情報交換を行った。

さらに特任研究員の田中を中心に、研究の仕上げのため、各研究分担者・研究協力者間の情報交流・調整に努めた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 10 件)

Suzuki K, Saso A, Hoshino K, Sakurai J, Tanigawa K, Luo Y, Ishido Y, Mori S, Hirata K, and Ishii N. "Paleopathological Evidence and Detection of Mycobacterium Leprae DNA from Archaeological Skeletal Remains of Nabe-kaburi (Head-Covered with Iron Pots) Burials in Japan." *PLoS ONE*, 9(2), 査読有, 2014, e88356.

DOI: 10.1371/journal.pone.0088356.

森 修一「ハンセン病と医学-第一回、ヨーロッパへのハンセン病の伝搬-」『日本ハンセン病学会雑誌』査読無、83、2014 年、22-28 頁。

金森 修「専門知と教養知の境域」『近代教育フォーラム』査読有、(22)、2013 年、135-149 頁。

山邊 昭則「現代の科学技術政策の課題と大学教育による応答」『大学教育学会誌』査読有、35(1)、2013 年、144-151 頁。

森 修一「2012 年から 2013 年上四半期

における世界のハンセン病の現況について」『日本ハンセン病学会雑誌』査読無、82、2013年、133-142頁。

森 修一、スマナ パルア、鈴木 幸一、四津 里英、石井 則久「2012年における世界のハンセン病の現況について」『日本ハンセン病学会雑誌』査読無、82、2013年、59-69頁。

Mori S, Yotsu RR, Suzuki K, Makino M, Ishii N. "Present Situation of Leprosy in Japan, 2006-2010: Analysis of Drug Resistance in New Registered and Relapsed Cases by Molecular Biological Methods." *J Dermatol Sci.*, 査読有, (67), 192-194, 2012.

DOI: 10.1016/j.jdermsci.2012.05.002.

森 修一、スマナ パルア、鈴木 幸一、石井 則久、四津 里英「2011年における世界のハンセン病の現況について」『日本ハンセン病学会雑誌』査読無、81(1・2)、2012年、145-154頁、

https://www.jstage.jst.go.jp/article/hansen/81/1_2/81_145/_article/-char/ja/

石井 則久、四津 里英、森 修一「愛知県のハンセン病外来診療について」『日本ハンセン病学会雑誌』査読有、80(3)、2011年、261-268頁、

https://www.jstage.jst.go.jp/article/hansen/80/3/80_261/_article/-char/ja/

金森 修「公共性の黄昏」『現代思想』査読無、39(18)、2011年、136-150頁。

〔学会発表〕(計 11 件)

田中 丹史、関谷 翔、花岡 龍毅、廣野 喜幸「日本の医療政策における審議会の機能と科学コミュニケーション：肝炎対策推進協議会を主な素材として」『科学技術社会論学会第12回年次研究大会』2013年11月17日、東京工業大学(東京都目黒区)。

Sho Sekiya, Akashi Tanaka, Kosuke Moriwaki, Yoshiyuki Hirono. "The Role of Scientific Advisory Committees in Japan: Empirical Research from 1973 to 2012", the 2013 Meeting of the Society for Social Studies of Science, 12 October in 2013, Town and Country Resort and Convention Center, San Diego(United States of America).

Akashi Tanaka, Sho Sekiya, Kosuke Moriwaki, Yoshiyuki Hirono. "Historical Analysis of Advisory Committees on Medical Policies in Japan: Expert Knowledge and Medical Officers.", the 2013 Meeting of the Society for Social Studies of Science, 10 October in 2013, Town and Country Resort and Convention Center, San Diego(United States of America).

瀬川 将広、久保 瑛二、森 修一、横田 隆「東北新生園における「社会復帰研究

会」と農業コロニー「東北農場」の設立」『第86回日本ハンセン病学会総会』2013年5月30日、大宮ソニックシティ(埼玉県)。

森山 一隆、森 修一「南方の療養所(奄美和光園)70年の軌跡」『第86回日本ハンセン病学会総会』2013年5月30日、大宮ソニックシティ(埼玉県)。

森 修一「相対隔離政策から絶対隔離政策への過程を検証する研究」『第86回日本ハンセン病学会総会』2013年5月30日、大宮ソニックシティ(埼玉県)。

田中 丹史、花岡 龍毅、廣野 喜幸「予防接種政策における提言・評価機関の国際比較分析：レギュラトリーサイエンス論の観点から」『科学技術社会論学会第11回年次研究大会』2012年11月18日、湘南国際村センター(神奈川県)。

瀬川 将広、森 修一、横田 隆「東北新生園における入所者の退所理由別統計」『第85回日本ハンセン病学会総会』2012年6月22日、北海道大学(北海道)。

森 修一、石井 則久「国内ハンセン病療養所における入退所者の統計」『第85回日本ハンセン病学会総会』2012年6月22日、北海道大学(北海道)。

石井 則久他「2011年のハンセン病新規患者発生状況」『第85回日本ハンセン病学会総会・学術大会』2012年6月22日、北海道大学(北海道)。

森 修一、石井 則久「世界のハンセン病政策に関する研究：ハワイのハンセン病政策の変遷」『第84回日本ハンセン病学会総会』2011年5月13日、岡山国際交流センター(岡山県)。

〔図書〕(計 3 件)

石井 則久『今日の治療指針2014』(福井次矢、高木誠、小室一成総編集)、医学書院、2014年、1900頁(1122-1123頁)。

廣野 喜幸『サイエンティフィック・リテラシー：科学技術リスクを考える』丸善出版、2013年、228頁。

犀川 一夫、石井 則久、森 修一『世界ハンセン病疫病史：ヨーロッパを中心として』皓星社、2012年、360頁。

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

http://hps.c.u-tokyo.ac.jp/medical_risk_management_policy/

6. 研究組織

(1)研究代表者

廣野 喜幸 (HIRONO, Yoshiyuki)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：90302819

(2)研究分担者

石井 則久 (ISHII, Norihisa)
国立感染症研究所・ハンセン病研究センター・センター長
研究者番号：50159670

市野川 容孝 (ICHINOKAWA, Yasutaka)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：30277727

金森 修 (KANAMORI, Osamu)
東京大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：90192541

森 修一 (MORI, Shuichi)
国立感染症研究所・ハンセン病研究センター感染制御部第七室・室長
研究者番号：40559522

山邊 昭則 (YAMABE, Akinori)
東京大学・教養学部・特任講師
研究者番号：70533933

渡邊 日日 (WATANABE, Hibi)
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号：60345064

(3)研究協力者

関谷 翔 (SEKIYA, Sho)
東京大学・大学院総合文化研究科・博士課程・大学院生
研究者番号：なし

高野 弘之 (TAKANO, Hiroyuki)
埼玉県立文書館・職員
研究者番号：なし

花岡 龍毅 (HANAOKA, Ryuki)
早稲田大学・政治経済学術院・非常勤講師
研究者番号：70362530